

# 東三河農業要覧 2013



平成26年3月

# 目 次

1	東三河農業の主要指標	1
2	地域農業の概要	2
3	農業産出額の概要	5
4	農産物の生産状況	6
5	畜産の生産状況	12
6	事業実施状況の概要	14
7	農業経営基盤強化促進事業の概要	24
8	地方卸売市場の概要	25
9	農業協同組合の概要	26
10	農業振興地域制度の概要	27
11	農地制度の概要	28
12	参考資料	
	(1) 作物・種類別農業産出額の状況	29
	(2) 耕地の状況	30
	(3) 農家の状況	31
	(4) 作物別作付(栽培)面積・収穫量	32
	(5) 家畜の飼養状況	36
	(6) 畜産経営に起因する環境汚染問題の発生状況	37
	(7) 農薬取締法及び肥料取締法関係の届出状況	38

## 表紙の写真

○ 田原市中山地区に広がるキャベツ畑

# 1 東三河農業の主要指標

区 分	単位	東 三 河			愛 知 県			全 国			出典資料
		19年	24年	対比% 24/19	19年	24年	対比% 24/19	19年	24年	対比% 24/19	
農 家 戸 数	戸	15,918	14,947	94.2	92,033	84,028	91.6	2,848,166	2,527,948	88.8	19年値 2005年農林業 センサス17年 2月  24年値 2010年農林業 センサス22年 2月
農 家 率	%	6.5	5.8		3.3	2.9		5.8	4.9		
販 売 農 家	戸	11,837	10,806	91.3	51,638	43,599	84.4	1,963,424	1,631,206	83.1	
主 業 農 家	戸	6,428	5,280	82.1	13,000	10,128	77.9	429,467	359,720	83.8	
主 業 農 家 率	%	54.3	48.9		25.2	23.2		21.9	22.1		
農 業 就 業 人 口	人	29,930	25,852	86.4	100,261	77,359	77.2	3,352,590	2,605,736	77.7	
基 幹 的 農 業 従 事 者	人	25,922	23,887	92.1	73,209	66,861	91.3	2,240,672	2,051,437	91.6	
耕 地 面 積	ha	18,905	18,445	97.6	82,300	78,300	95.1	4,650,000	4,549,000	97.8	耕地面積調査 24年7月
1戸当たり平均耕地	a	119	123	103.4	91	93	102.2	154	180	116.9	
田 面 積	ha	5,670	5,405	95.3	46,600	44,300	95.1	2,530,000	2,469,000	97.6	
畑 面 積	ha	13,266	13,040	98.3	35,700	34,000	95.2	2,120,000	2,080,000	98.1	
田面積の割合	%	30.0	29.3		56.7	56.6		54.4	54.3		
農 業 産 出 額	千万円	14,658			31,535	29,480	93.4	844,490	824,630	97.6	生産農業所得 統計23年 (東三河の19 年は18年値)
米	%	3.2			10.2	11.1		21.4	22.4		
園芸	%	72.1			62.5	58.7		39.6	39.0		
畜産	%	23.9			25.2	26.9		31.1	30.9		
農作物作付延べ面積	ha	18,940			75,400	72,200	95.7	4,346,000	4,193,000	97.3	作物統計調査 23年
稲作付面積	ha	4,299			31,900	30,300	95.0	1,688,000	1,576,000	94.2	
野菜作付面積	ha	9,232			18,700	17,900	95.7	557,800	541,400	97.4	
果樹作付面積	ha	1,780			5,500	5,140	93.4	261,800	243,500	94.2	
花き等作付面積	ha	1,714			5,130	4,710	91.8	90,300	86,100	97.4	
乳用牛飼養頭数	頭	16,130	12,455	77.2	37,300	30,700	82.3	1,593,000	1,449,000	91.0	畜産統計調査 24年2月
肉用牛飼養頭数	頭	34,200	28,927	84.6	56,207	52,600	93.6	2,890,000	2,723,000	94.2	
豚飼養頭数	頭	230,870	206,790	89.6	377,200	351,800	93.3	9,745,000	9,735,000	99.9	
採卵鶏飼養羽数	千羽	3,111	2,438	78.4	10,712	9,934	92.7	184,773	174,949	94.7	

\*園芸は野菜、果実、花きの計

## 2 地域農業の概要

東三河農林水産事務所の管轄する地域は、愛知県東南部に位置している。平成17年10月に渥美郡渥美町が田原市へ編入合併され、同様に、18年2月に宝飯郡一宮町が豊川市へ、20年1月に宝飯郡音羽町及び御津町が、22年2月に小坂井町がそれぞれ編入合併されたことから、豊橋市、豊川市、蒲郡市、田原市の4市となっている。

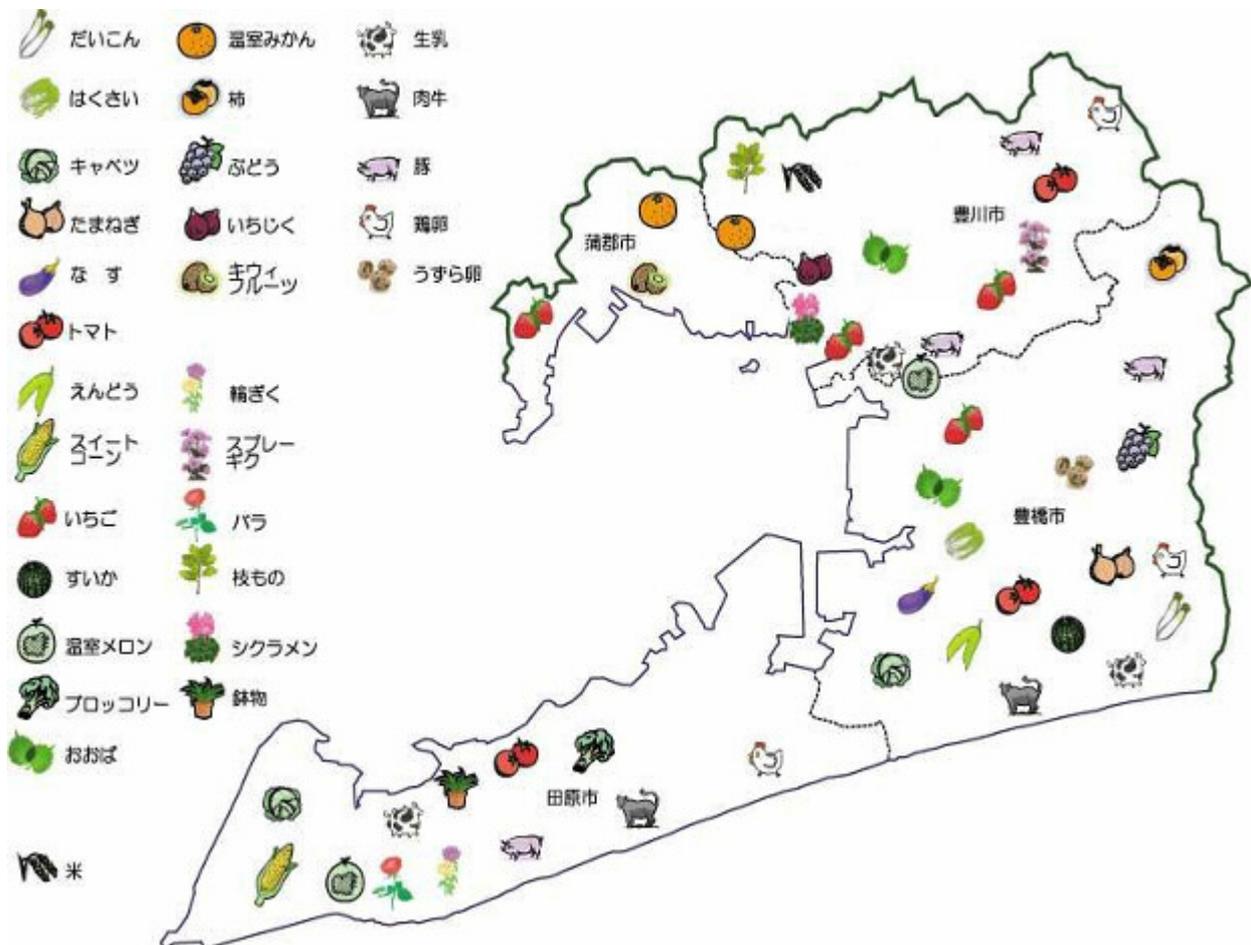
温暖な気候と豊川用水の恩恵に加え、交通網の整備等により、園芸、畜産を始め多種多様な農業が営まれている。

昭和43年の豊川用水の全面通水を契機に、この地域の農業は水利用に合わせた生産構造に転換した。

その後、この地域は、国や県、市町村の各種補助事業を積極的に活用し、農業生産基盤や園芸・畜産団地、農産物の集出荷場、家畜ふん尿処理施設、農村環境等の整備を進めるとともに、農業近代化資金等の農業制度資金の活発な投資を行い、農業振興、農村の活性化に積極的に取り組んでいる。

こうした取り組みの結果、現在では、露地野菜や施設園芸作物は全国屈指の産地となり、首都圏を始め京阪神、名古屋など全国各地に出荷されている。

### 地域特産マップ



### (1) 農家の動向

管内の総人口(21年10月1日現在)は711,863人、総世帯数は251,737世帯となっており、このうち、農家世帯員数は、総人口の7.1%に当たる49,898人、総農家数は総世帯数の5.9%に当たる14,947戸となっている。この農家数は県全体の17.8%を占めている。

また、販売農家は総農家数の72.3%に当たる10,806戸(県全体の24.8%)となっている。

管内の販売農家に占める主業農家の割合は48.8%(5280戸)と、県平均23.2%の2.1倍となっている。特に、田原市は66.2%と高い割合にある。

### (2) 耕地面積の動向

管内の耕地面積(24年7月15日現在)は18,445haで、このうち畑が13,040ha、田は5,405haとなっている。耕地面積に占める畑の割合は70.7%と、県平均43.4%に比べ高い割合にある。

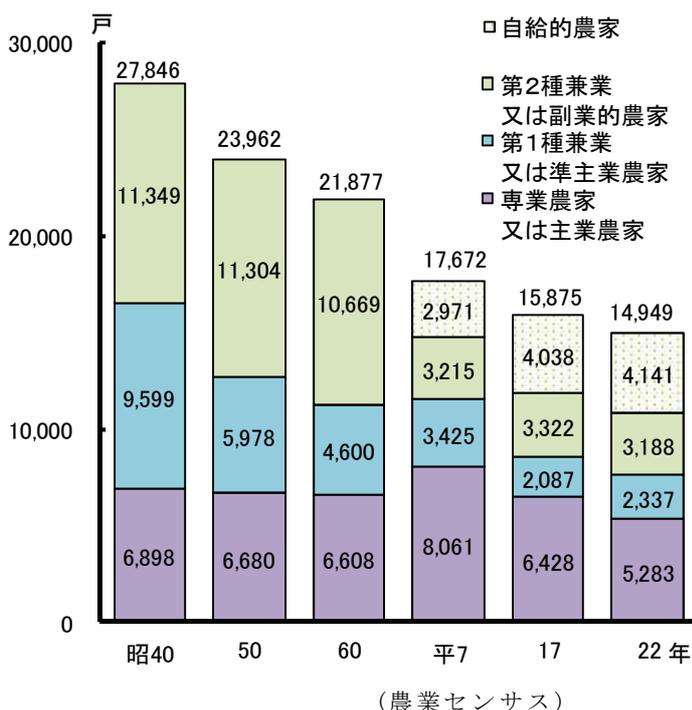
また、管内の1戸当たりの平均耕地面積は123aと、県平均の93aの1.32倍となっている。

### (3) 経営耕地規模別農家数

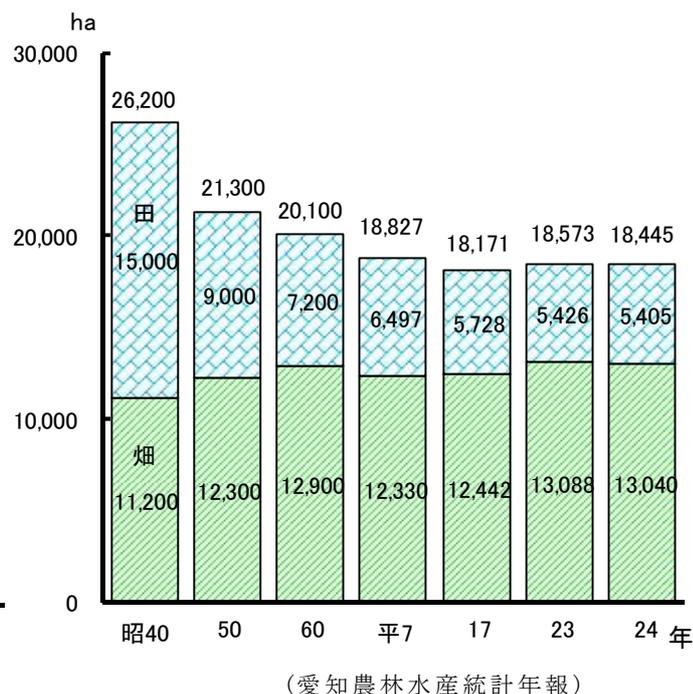
管内の経営耕地面積規模別農家数(販売農家)の構成割合(22年2月1日現在)をみると、0.5ha未満は21.6%、0.5以上1.0ha未満は36.9%、1.0以上2.0ha未満は26.8%、2.0ha以上が14.8%となっている。

特に、豊橋市や田原市には経営規模の比較的大きな農家が多い。

専兼別農家数などの推移



耕地面積の推移



#### (4) 豊川用水の概要

東三河地域は昭和 43 年に全面通水した豊川用水により、温暖な気候と京浜・京阪神の大都市圏の中間に位置する地理的条件を生かして、全国屈指の畑作農業地帯へと大きく発展した。

しかし、営農形態の変化や人口増加等による水需要の増大や渇水により、48 年以降、毎年のように節水を余儀なくされてきた。

その対策として、55 年から新規水源の確保を目的とした豊川総合用水事業が着手され、平成 14 年 3 月に完了した。しかしながら、近年では無降水日の増加と短時間での強雨といった傾向にあり、より安定した水供給を確保するため、設楽ダム建設事業の推進が必要となっている。

本県では、昭和 61 年から「水管理の合理化」と「水資源の有効活用」を目的とした県営かんがい排水事業豊川総合用水地区により、支線水路の改築を行い、平成 22 年 3 月に完了した。

また、豊川用水は通水後約 40 年が経過しており、施設の老朽化による漏水・破損事故等が顕著となってきたため、独立行政法人水資源機構は平成 11 年度から「幹線水路の改修と複線化」及び「国営級支線水路改築」を目的とした豊川用水二期事業を実施した。

さらに、平成 19 年度に豊川用水二期事業に計画変更で追加した、東海・東南海地震の防災対策区域の拡大に伴う幹線水路・水源施設等の改修のための「大規模地震対策」及び支線水路や畑かん水路で多く使用されている石綿セメント管の老朽化やアスベスト対策のための「石綿管除去対策」を平成 27 年度完了に向け実施している。



幹線水路の複線化工事状況（豊川用水二期事業）



(独)水資源機構豊川用水総合事業部資料

### 3 農業産出額の概要

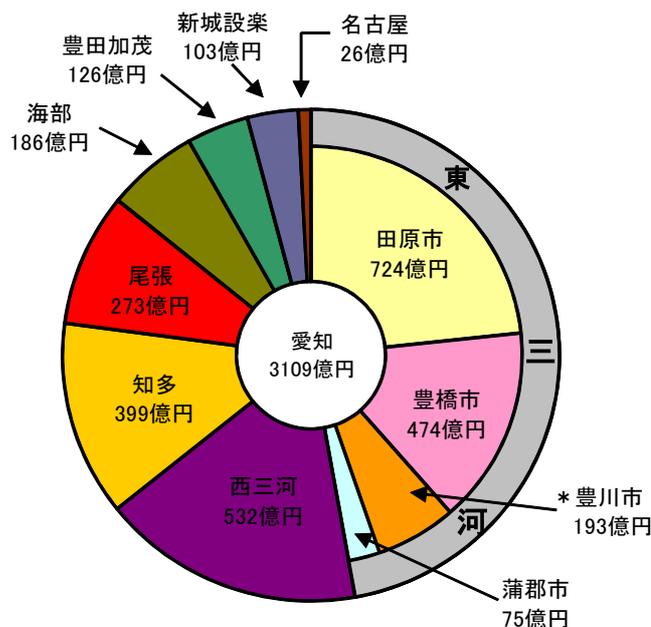
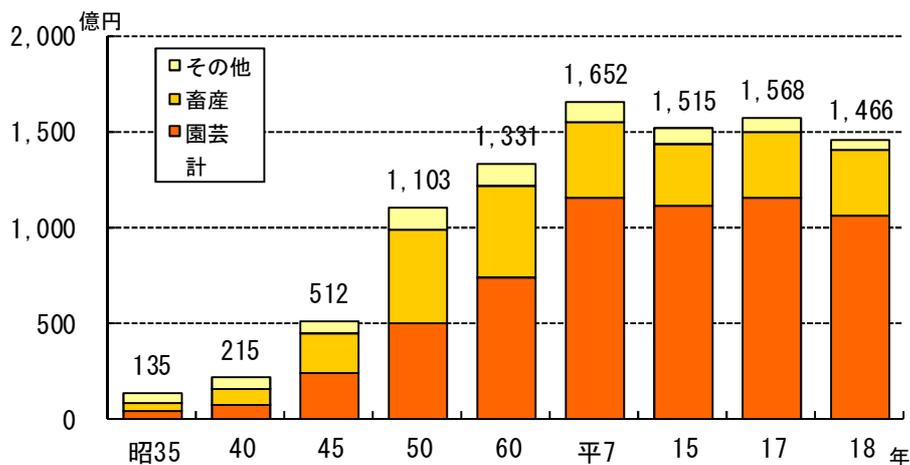
18年におけるこの地域の農業産出額は県全体の47.2%を占める1,466億円である。この内訳は、園芸作物が1,056億円（県全体の52.9%）、畜産343億円（同21.6%）、穀類55億円（同15.5%）などとなっている。

主な品目としては、野菜はトマト、メロン、キャベツ、はくさい、レタス、ブロッコリー、果実はみかん、かき、ぶどう、花きはきく、ばら、観葉植物などである。

また、主な畜産物は、生乳、肉用牛、豚、鶏卵などである。

市町村別の農業産出額では、田原市が県全体の23.3%を占める724億円を始めとして、豊橋市は474億円（県全体の15.2%）、豊川市が193億円（同6.2%）。蒲郡市が75億円（同2.4%）となっている。

農業産出額の推移



\* 豊川市には合併前の旧宝飯郡を含む

(生産農業所得統計)

県内地域別農業産出額の割合 (18年)

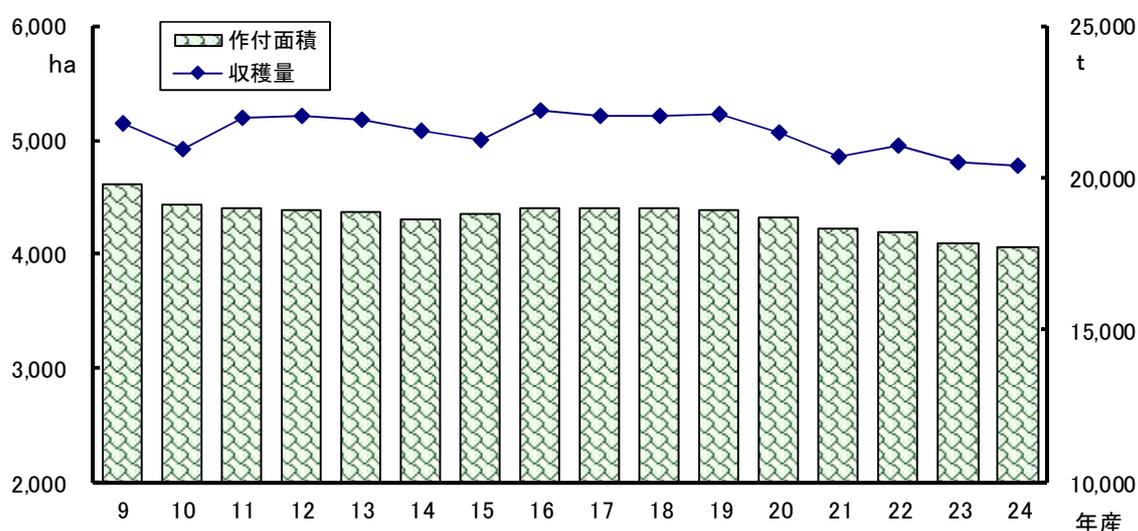
## 4 農産物の生産状況

### (1) 水稲

管内の24年産水稲の作付面積は4,068haで、前年産の4,101haよりわずかに減少した。収穫量は20,417 tで、作況指数は全国の102に対し、愛知県101、東三河100であった。主な品種は、あきたこまち、コシヒカリ、祭り晴れ、あさひの夢、あいちのかおりSBLなどである。

近年、登熟期に高温（日平均気温27℃以上の継続）出現頻度が高くなり、登熟障害（白未熟粒）を生じることが増えているため、軽減策が検討されている。

水稲の作付面積と収穫量の推移



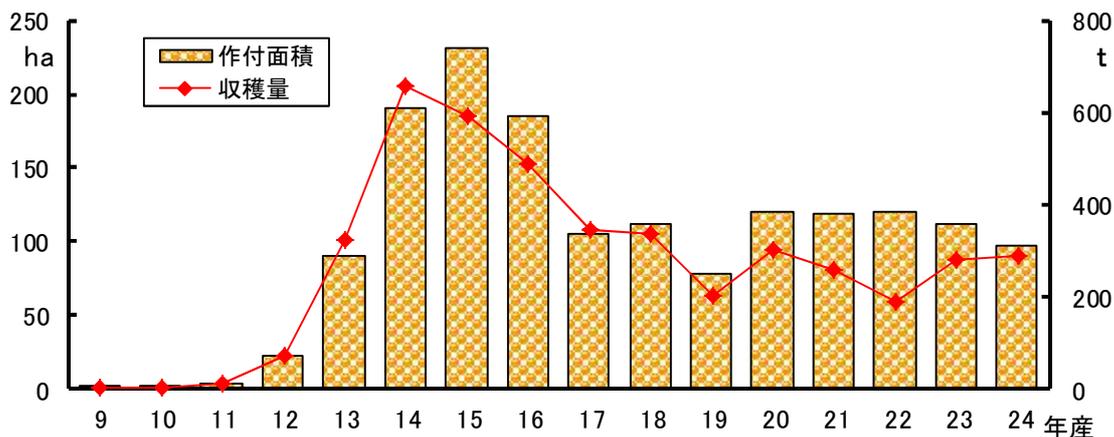
### (2) 麦・大豆

#### ア 麦

管内の小麦は、主に水田で栽培されており、主な品種は農林61号である。

24年産の小麦の作付面積は98haで、前年産の113haより減少した。収穫量は289 tとなり、前年産の280 tよりわずかに増えた。

小麦の作付面積及び収穫量の推移

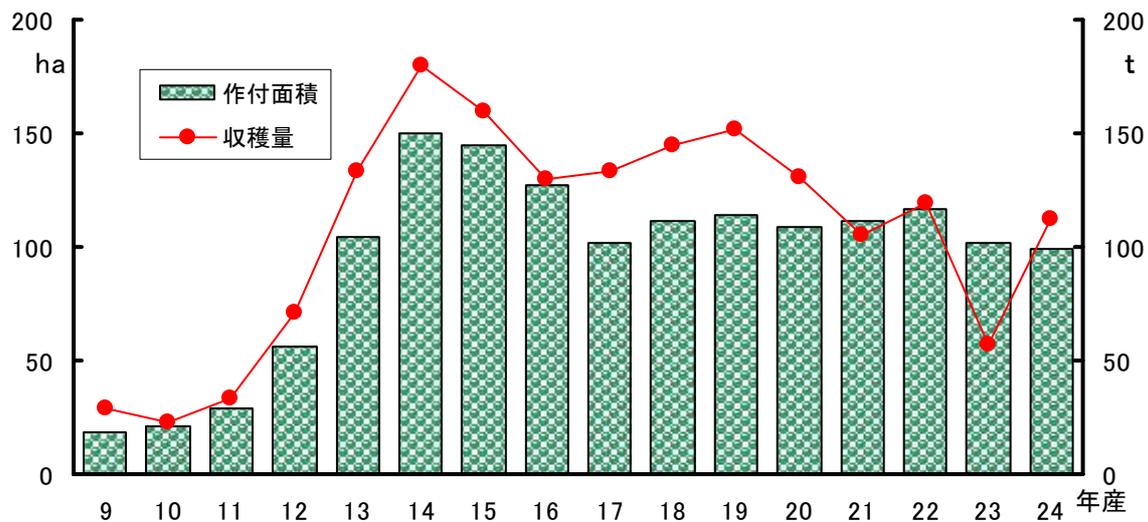


## イ 大豆

管内の大豆は、主に麦作後に栽培され、主な品種はフクユタカである。

24年産の大豆の作付面積は99haで、前年産の102haより減少した。9月には台風が愛知県東部に上陸したが影響は小さく、収穫量は112tと前年産の57tから回復した。

大豆の作付面積及び収穫量の推移



(水稻、小麦、大豆の作付面積及び収穫量の推移は、愛知県農林水産統計による)

### (3) 野菜

この地域は、温暖な気候、水利に恵まれた全国を代表する園芸地帯である。22年産の主要野菜作付延べ面積は8,560haで、首都圏と関西圏という2大消費地の中間に位置する立地条件を生かし、東海はもとより全国に出荷している。

#### ア 露地野菜

温暖な気候を生かした秋から春にかけての露地栽培が盛んで、キャベツは、豊橋市及び田原市が全国屈指の巨大産地を形成している。

また、はくさいは豊橋市及び豊川市で、たまねぎは豊橋市で、レタス、ブロッコリーは豊橋市及び田原市で、セルリー、カリフラワーは田原市で栽培され主要産地となっている。

一方、夏には、すいか、メロン、スイートコーンが、主に豊橋市及び田原市で栽培されている。

#### イ 施設野菜

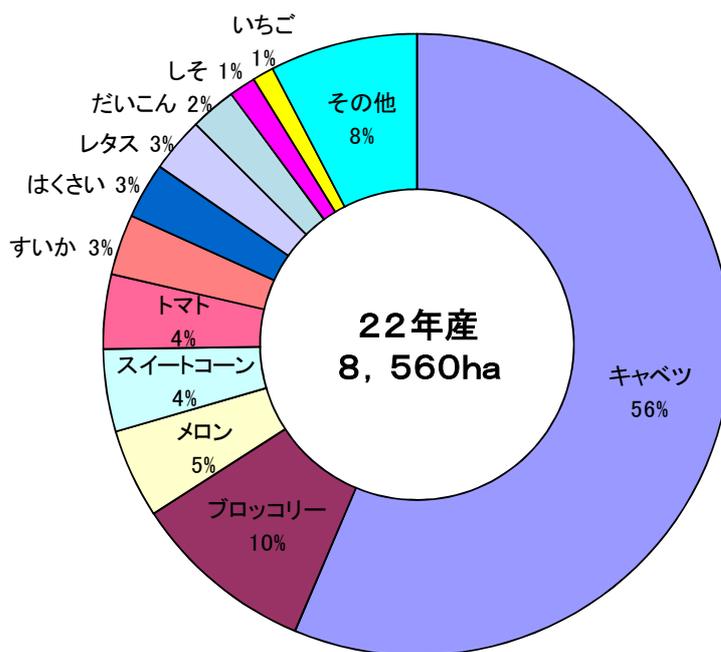
年間を通して日照時間が長いいため施設栽培に適しており、施設園芸の発祥の地として施設園芸地帯を形成している。

トマト（ミニトマト含む）、いちご、大葉や菊花などの「つまもの」が、全市で栽培されており、特に「つまもの」は、全国一の産地となっている。

トマトは周年化が進んでいるが、豊橋市、田原市及び豊川市の一部では、夏にメロンを栽培する作型となっている。

また、なすは、豊橋市で栽培され主要産地となっている。

### 主要野菜の作付延べ面積



#### (4) 花き

花き生産は、そのほとんどが施設栽培であり、管内農業の主要部門を占めている。管内の23年産の花き作付延べ面積は1,454ha、産出額は約373億円であり、切花の総出荷本数は524,556千本、鉢物類の総出荷鉢数は9,684千鉢(花壇苗を含む。)である。

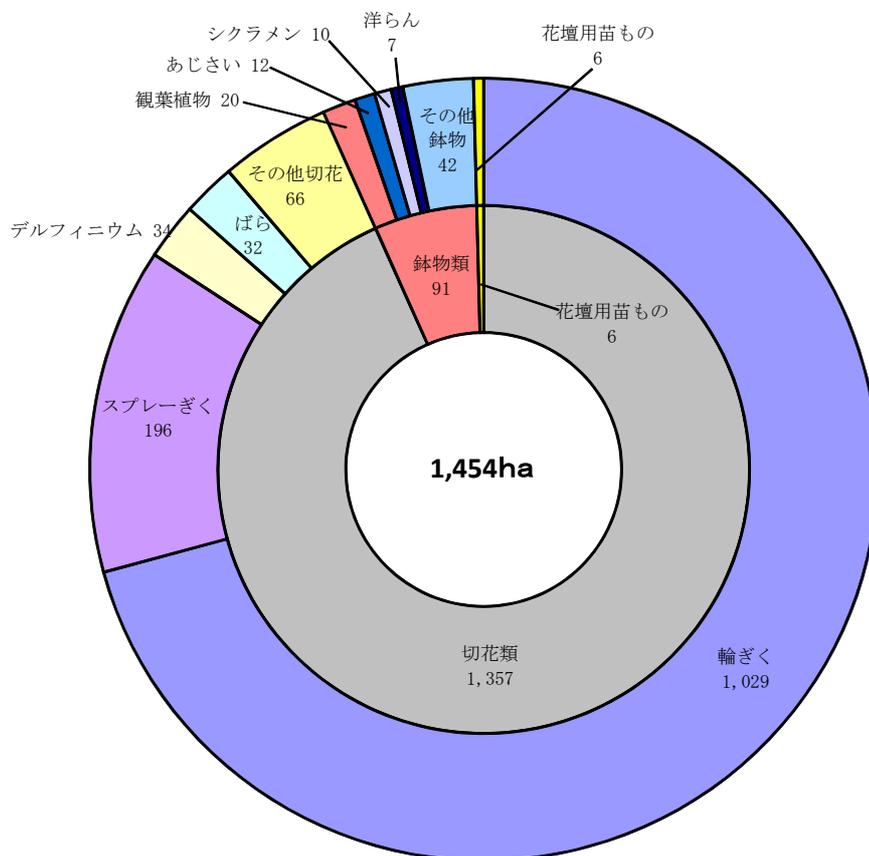
輪ぎくは田原市及び豊川市を中心に作付延べ面積は1,029haで、全国生産の約2割を占める日本一の産地を形成しており、出荷量は354,476千本である。電照ぎくとして全国的に有名であるが、夏ぎく栽培の普及により、年3作の周年生産が定着している。

スプレーぎくは、田原市及び豊川市を中心に生産され、作付延べ面積は196ha、出荷量は86,925千本で日本一の産地となっている。

その他の切花では、管内全域でばら(32ha)が生産され、豊橋市を主体にデルフィニウム(34ha)の生産が行われている。また、田原市を主体にアルストロメリア(12ha)、グロリオサ(11ha)、カーネーション(7ha)、トルコぎきょう(7ha)、ガーベラ(7ha)等様々な切花の生産が行われている。

鉢物類も管内全域で栽培されており、観葉植物(20ha)、洋らん(7ha)を始めとして、あじさい(12ha)、シクラメン(10ha)、ポインセチア(5ha)、ハイビスカス(3ha)、ポットカーネーション(4ha)等が生産されている。

花きの作付延べ面積 (23年産) (ha)



(業務資料)

## (5) 果樹

この地域では、かんきつ類、かき、なし、ぶどう、いちじく、もも、キウイフルーツなど多種類の果樹が栽培されており、23年の栽培面積は905haである。

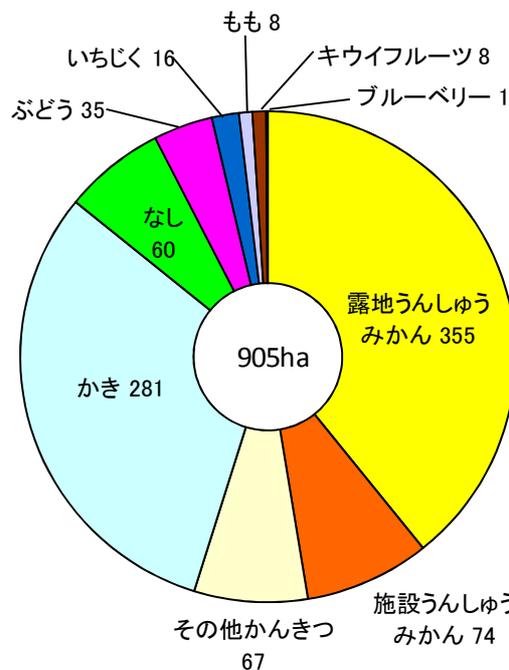
かんきつ類は、蒲郡市を中心に豊川市から豊橋市及び渥美半島沿岸部にかけて栽培されており、うんしゅうみかんを主体に栽培されている。

特に、昭和50年頃から栽培が始まった「ハウスみかん」(施設うんしゅうみかん)は、栽培面積74haと、全国でも有数の産地となっているが、近年の燃料価格高騰により、「はるみ」を始めとする中晩柑への品種転換など、栽培の多様化が進行している。出荷先は施設では主に京浜市場へ、露地は中京市場である。

かきは、豊橋市北部地域を中心に豊川市にかけて栽培されており、「次郎柿」は全国一の産地を形成している。しかし、近年では、次郎柿の集中出荷の回避、出荷期間の延長、労力分散を図るため、次郎柿より出荷の早い品種「早秋」や、出荷の遅い「陽豊」の導入が図られている。出荷期間は、一部のハウス柿が9月上旬から出荷され、12月上旬まで主として京浜市場へ出荷されている。

なしとぶどうは、豊橋市を中心に豊川市にかけて栽培されている。なしは「幸水」、ぶどうは「種なし巨峰」が主体である。

果樹の栽培面積（23年）(ha)



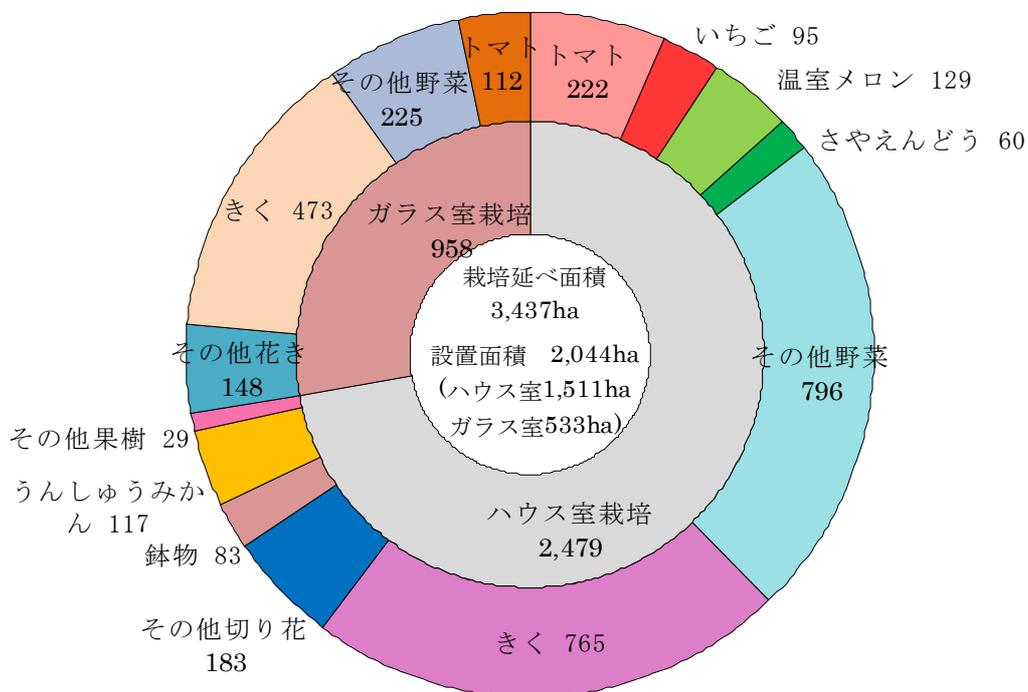
(特産果樹生産動態等調査)

**(6) 施設面積**

園芸作物施設面積は順調に増加してきており、21年にはガラス室 533ha、ビニールハウス等 1,511ha、合計 2,044ha となっている。

なお、農業用使用済プラスチックフィルムの 23 年の排出量は、塩化ビニール 597 t、ポリエチレンフィルムで 642 t、その他プラスチックフィルム 164 t となっている。

**施設等面積 (21 年)**



(園芸用ガラス室・ハウス等の設置状況調査)(単位：ha)